

平成28年度第1回
野田市廃棄物減量等推進審議会

会 議 次 第

《日 時》 平成28年10月7日（金）

午後2時30分から

《会 場》 保健センター3階大会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 副市長挨拶

4 議 事

議案第1号 指定ごみ袋無料配布枚数の見直し及び紙おむつ対策等について

その他 ①ダンボールコンポスト講座の開催結果について

②食品廃棄物の削減（食品ロス）について

5 閉 会

【資 料】

資料1 指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについて

資料2 指定ごみ袋空隙状況調査結果

資料3 乳幼児の紙おむつ対策に係るアンケート調査結果

資料4 高齢者及び障がい者の紙おむつ対策に係るアンケート調査結果

資料5 ダンボールコンポスト講座アンケート調査結果

資料6 「ごみの出し方・資源の出し方」抜粋【食品廃棄物の削減（食品ロス）】

指定ごみ袋無料配布枚数の見直し及び紙おむつ対策等について

平成26年1月に廃棄物減量等推進審議会から「ごみ減量施策等の推進について（第1次答申）」をいただき、指定ごみ袋無料配布枚数の見直しは、26年度と27年度は130枚から10枚削減の120枚とし、28年度以降は順次削減することで、26年4月から実施しています。

指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについては、27年度の審議会において、無料配布枚数を10枚削減してからの26年度と27年度途中のデータで判断することは難しい状況にあることから、27年度のデータと集積所に出されているごみ袋の空隙状況調査をし、改めて、28年度の審議会においてご審議いただくこととなりました。

なお、24年度から27年度までの「指定ごみ袋引換状況」等は資料1、28年5月から8月までの「指定ごみ袋の空隙調査」は資料2のとおりです。

1 指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについて

(1) 4か年の指定ごみ袋の引換状況について

- ① 27年度の有料指定ごみ袋の販売枚数は、130枚の配布枚数だった24年度と比較してほぼ同数であり、25年度を頂点にそれ以降減少していることから、指定ごみ袋無料配布枚数の削減については、概ね市民の理解と協力が得られているものと考えています。

※ 25年度では、指定ごみ袋無料配布枚数や有料販売枚数が突出していますが、これは26年度より配布枚数の削減や消費税値上げによる影響により、必要枚数以上に交換したものと考えられるため24年度と比較しています。

- ② 27年度の1世帯毎の指定ごみ袋無料交換枚数は約93枚であり、前年度と比較して12枚の減、また、無料交換枚数は約70万枚の減、有料指定ごみ袋販売枚数は約3万2千枚減と大幅に減少しています。一方、1人1日当たりの家庭系ごみの27年度の排出量は、26年度と比較して3.15グラム増えています。このことから、指定ごみ袋無料交換枚数等が減った要因は、1回で出すごみの量が増えたこと等が考えられます。

- ③ 27年度の20ℓ袋・30ℓ袋・40ℓ袋の1世帯毎の指定ごみ袋無料交換枚数は、120枚交換できるなか、容量毎の該当世帯数で除した枚数を引くと、20ℓ世帯は約30枚以上、30ℓ及び40ℓ世帯は約20枚以上の余りがあるものと考えられます。

- ④ 28年度の4月から8月までの5か月分の指定ごみ袋の無料交換枚数と有料販売枚数をみますと、無料交換枚数では、27年度同期間中と比較すると約89万枚の大幅な増、また、有料販売枚数では、4.7万枚の増となっており増えた要因は不明です。

(2) 指定ごみ袋の空隙調査について

廃棄物減量等推進員会議代表者や推進員の皆様のご協力のもと、平成28年5月から8月にかけて市内各所のごみ集積所に実際に排出された指定ごみ袋の空隙状況を調査していただきました。原則として週1回（月曜または火曜日）、ごみ集積所に排出された可燃ごみ袋の空隙状況を実際に見ていただきました。

なお、結果についてその割合で見ますと全体では、「余裕あり」が13.2%、「多少余裕あり」が26.2%、「容量満杯」が60.6%となっていました。

また、地域別に見ますと、市街化区域、新市街化区域は、ほぼ同じ割合になっており、「容量満杯」が60%以上を占めています。次に調整区域については、「容量満杯」50.9%となっており、市街化区域、新市街化区域と比較すると、約10%低くなっています。要因としては、畑や庭等に埋め込み式コンポスト等を設置し生ごみを処理していること等が考えられます。

次に、「容量満杯」については、可燃ごみの排出を週1回にしていることにより「容量満杯」となっている状態も考えられます。

◎空隙調査結果

	ごみ袋の計				割合（％）		
	余裕あり	多少余裕あり	容量満杯	計	余裕あり	多少余裕あり	容量満杯
全体	3,185	6,293	14,586	24,064	13.2	26.2	60.6
市街化区域	2,175	4,127	10,780	17,082	12.7	24.2	63.1
新市街化区域	354	687	1,590	2,631	13.5	26.1	60.4
調整区域	656	1,479	2,216	4,351	15.1	34.0	50.9

※1：3区分は、市街化区域、新市街化区域^{※2}、調整区域です。

※2：新市街化区域は、最近区画整理した、清水公園東・桜の里・つつみ野（中央地区）、花井・みずき（南部）、光葉町（北部）、泉（川間）としました。

※3：余裕ありは、指定ごみ袋に、おおよそ7割までごみが入っている状態。

多少余裕ありは、指定ごみ袋に、おおよそ8～9割までごみが入っている状態。

容量満杯は、指定ごみ袋に、ごみが満杯に入っている状態。

(3) 今後の進め方について

指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについては、28年度の無料交換・有料販売枚数に増加がみられるものの、(1)の③のとおり27年度の無料交換枚数に余りがあると考えられるため、無料配布枚数を削減する方向で検討していきたいと考えております。ついては、次回の審議会に28年9月以降の交換・販売枚数等をお示ししたうえで、ご審議いただきたいと考えております。

2 紙おむつ対策について

(1) 野田市における紙おむつ対策の現状

◎配布枚数 「40%のごみ袋60枚分」

※ただし、里帰り出産は、40%のごみ袋10枚分

区分	回数	担当課	24年度	25年度	26年度	27年度	計
2歳未満の乳幼児	乳幼児 1人 1回限り	市民課	1,145	1,157	1,051	1,055	4,408
里帰り出産	新生児 1人 1回限り	児童家庭課 または 保健センター	—	—	12	45	57
小計 ①			1,145	1,157	1,063	1,100	4,465
特別障害者 手当 受給者	年度内 1回限り	障がい者 支援課	46	43	43	60	192
障害児福祉 手当 受給者			47	50	55	62	214
経過的福祉 手当 受給者			1	1	1	1	4
おむつ手当 受給者			0	0	0	0	0
障害年金 受給者	年度内 1回限り	清掃計画課	10	16	20	21	67
介護用品 (おむつ) 支給受給者	年度内 1回限り	高齢者 支援課	281	259	310	349	1,199
小計 ②			385	369	429	493	1,676
合 計 (①+②)			1,530	1,526	1,492	1,593	6,141

※国の手当である「特別障害者手当」「障害児福祉手当」「経過的福祉手当」及び、市の手当である「おむつ手当（ねたきり身体障がい者福祉手当）」受給者で、常時おむつをしている方が対象となります。なお、各手当には所得制限があります。

※「障害年金」受給者で常時おむつをしている方が対象となります。

※市の手当である「介護用品（おむつ）支給」の受給要件は、高齢者等の方で、要介護等認定において、おむつの使用に関する記載がされている方で非課税世帯等です。

(2) 乳幼児の紙おむつ対策に係るアンケート調査結果について（資料3）

保健センター、関宿保健センターで実施している3か月児、1歳6か月児、3歳児健康診査に訪れた保護者に7月から8月にかけてアンケート調査を行いました。

まず、回答者のうち、無料追加交付された後に有料指定ごみ袋を購入したかどうかのQ3では、実際に購入した方は、約15%、購入していない方は、約73%となっています。

Q5で、指定ごみ袋の無料追加交付をどのようにしたらよいかをお聞きしたところ、「いままでどおり40ℓ袋60枚分」を希望された方は、約35%、「袋の容量を減らして交付枚数を増やす」ことを希望された方は、約27%、「袋の容量は同じで交付枚数を増やす」ことを希望された方は約32%、「袋の容量は同じで交付枚数を減らす」ことを希望された方は、約1%でした。

Q6で、3歳児健康診査を受診した方の中に日中の紙おむつをいつまで使用していたかお聞きしたところ、「2歳前半」が約11%、「2歳後半」が約30%、「3歳前半」が約39%、「おむつ使用中」が約17%となっていました。

(3) 高齢者及び障がい者の紙おむつ対策に係るアンケート調査結果について（資料4）

障がい者については、「特別障害者手当」「障害児福祉手当」「経過的福祉手当」「おむつ手当」受給者、高齢者については、介護用品（おむつ）支給受給者で指定ごみ袋の無料追加交付を27年度に受けた方に対して郵送によりアンケートを実施しました。

まず、回答者のうち、無料追加交付された27年度内に有料指定ごみ袋を購入したかどうかのQ2では、実際に購入した方は、約19%、購入していない方は、約71%となっています。

Q4で、指定ごみ袋の無料追加交付をどうしたらよいかをお聞きしたところ、「いままでどおり40ℓ袋60枚分」を希望された方は、約48%、「袋の容量を減らして交付枚数を増やす」ことを希望された方は、約22%、「袋の容量は同じで交付枚数を増やす」ことを希望された方は約18%、「袋の容量は同じで交付枚数を減らす」ことを希望された方は、約7%でした。

(4) 今後の進め方について

指定ごみ袋の無料追加交付を受けている乳幼児、高齢者、障がい者とも約70%以上の世帯で有料の指定ごみ袋を追加購入していませんでした。

なお、乳幼児については、2歳未満まで無料追加交付の対象としていますが、アンケート調査の結果、約56%の3歳児がおむつを使用しているとのことでありましたが、3歳児のおむつの使用については、更に保育所等で実態調査等をしたうえで、次の審議会で無料配布枚数の見直しと併せて、ご審議いただきたいと考えております。

その他①

ダンボールコンポスト講座の開催結果について

平成27年10月1日に開催された第2回廃棄物減量等推進審議会においてダンボールコンポスト講座の開催についてご決定いただき、募集要項に基づき、6月15日（水）から7月13日（水）までの期間、HPや市報への掲載、まめバス等へのポスターの掲示を行い、市民、市内に通勤又は通学している方を対象に募集したところ49世帯の応募がありましたが、抽選により30世帯とし、結果、29世帯（1世帯辞退）の皆様にご受講いただきました。

講座は、全2回開催し、初回を初心者向けの「堆肥の作り方導入講座」を実施し、生ごみ投入中に生じた疑問、不安等を解消するため、約1か月後にフォローアップとして「アフター講座」を実施いたしました。

生ごみ減量対策としてダンボールコンポストを推奨していくべきかを検証するため、第2回講座の受講者に対して、アンケート調査を実施しましたので、その結果等をご報告します。

1 ダンボールコンポストの仕組み

ダンボールコンポストとは、ダンボール箱に基材（もみ殻くん炭とココナツピートの混合等）を入れ、台所の生ごみ（1日約500gから約1kg以内）を投入かくはんし、土中の微生物の力を利用して、分解、堆肥化を図るものです。

設置場所は、軒下やベランダ等直接雨がかからず、風通しの良いところに設置します。

生ごみの投入は、約3か月間行い、その後約1か月間は、生ごみ投入を中止し熟成させ堆肥となります。よって投入開始から堆肥化するためには、約4か月間の期日を要します。生ごみを毎日投入し続ける場合、ダンボール箱と基材は、年間で4個ずつ使用することになります。

2 講座開催日時

第1回堆肥の作り方導入講座（初心者講座）

平成28年7月30日（土）

午前10時から午前11時30分まで

第2回アフター講座（フォローアップ講座）

平成28年8月20日（土）

午前9時30分から午前11時まで

3 受講世帯

第1回講座 29世帯

第2回講座 24世帯

4 アンケート調査結果概要（資料5）

（1）代表的な質問に対する主な回答

- ・ Q 8 でダンボールコンポストを始めて、可燃ごみの量が「かなり減った」「少し減った」との意見が合わせて92%でした。
- ・ Q10 で今後もダンボールコンポストに取り組みたいかとの質問に対し、「取り組みたい」が80%でした。
- ・ Q11 で今後の取り組みに対し、「分からない」と答えた方は、虫・臭い等の衛生面、維持管理の手間や適切な置き場所がないという理由を挙げています。

（2）総括

- ・ ダンボールコンポストに対して、ほとんどの方が生ごみの減量化を実感しており、好意的な感想意見が目立ちました。ダンボールコンポストにおいても減量に対する一定の効果は、期待できます。しかしながら、衛生面や投入できる量の少なさ、設置場所に対する懸念も存在しました。

5 今後の進め方について

（1）費用

市内の販売店で取扱い実績はなく、購入する場合は、今回講座を実施した事業者の他、インターネット等による通信販売が中心となります。循環生活研究所の一例を挙げますと、年間で常時生ごみ投入を行った場合、初年度費用が約5,000円、2年目以降約3,700円程度が必要となります。他の事業者においても内容に多少の違いはありますが、同程度の費用負担となることが考えられます。

（NPO 法人循環生活研究所の取扱品の一例）

セット名	金額	セット内訳
①初回セット	2,210 円（税込）	ダンボール箱、基材、温度計、虫よけキャップ、マニュアル
②追加購入分	921 円（税込）	基材 670 円、ダンボール箱 251 円
初年度費用	4,973 円（税込）	①+②×3 回
2 年目以降費用	3,684 円（税込）	②×4 回

※送料、振込手数料は別途

※費用は、1 個のダンボール箱に対し、生ごみ投入期間を3か月とし、年間休みなく使用した場合

(2) 今後の方針

今回、講座受講者によるアンケートでは、生ごみ投入開始後約1か月目（平成28年8月）の状態で実施したものであり、比較的好意的な意見が多数でしたが、ダンボール箱の耐用期間が終わる4か月目（28年11月）以降で、生ごみが堆肥化された頃にふたたびアンケート調査を実施し、使い勝手や費用面（助成があれば継続できるか）、通信販売でも購入するつもりがあるか等をお聞きしたうえで、今後助成対象としていくべきかを審議会でご審議いただきたいと考えております。

その他②

食品廃棄物の削減（食品ロス）について

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。

「政府広報オンライン」によれば、日本国内における年間の食品廃棄量は、食料消費全体の2割にあたる約1,800万トン。このうち、売れ残りや期限切れの食品、食べ残し等、本来食べられたはずの食品ロスは、500万トン～800万トンとされています。

市の現状では、平成24年3月に策定いたしました野田市一般廃棄物処理基本計画策定時にサンプルを抽出して推計した結果、可燃ごみの約52パーセントが厨芥類、つまり生ごみとされており、この割合を27年度の実績で換算しますと、年間可燃ごみ量約2.8万トンのうち約1.4万トンが生ごみと推測されます。

このことから、食品ロスを減らすことは、生ごみの減量に大きな効果があります。

1 市の取組み（資料6）

(1) 「ごみの出し方・資源の出し方」での啓発

平成28年度より、「ごみの出し方・資源の出し方」の中で食品廃棄物の削減（食品ロス）について掲載しており、食品ロスの主な要因は、「食べ残し」、「皮のむき過ぎ」、「鮮度落ち」であり、買い物をする前に冷蔵庫内等をチェックすることや、調理をするときは残っている食材から使うこと等、啓発に努めています。

(2) 各種講座等での取組み

保健センターでは、各種講座等を通して食品のロスを減らす調理法や無駄のない食材の選び方、食べきれる量を調理すること等、食物を大切にすることを意識付けを図っております。

2 国、県及び他市の取組み

国では、「食品ロス削減関係省庁等連絡会（消費者庁、内閣府、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省が連携）」を構成し、官民あげての食品ロス削減国民運動を展開しています。また、千葉県では、「ちば食べきりエコスタイル」として、食品ロスに取り組んでいます。この事業の協力店として平成28年9月現在で千葉県内203店舗あり、協力店では、「小盛りメニューの導入」

や「持ち帰り希望者への対応」等、食べきりの促進に向けた取組みが行われています。

次に、長野県松本市では、「残さず食べよう30・10運動」、北九州市では「残しま宣言運動」、京都市では「生ごみ3キリ運動 <使いキリ・食べキリ・水キリ>」等、いずれも食品ロス削減の取組みができるよう、飲食店や家庭等に情報提供を行い、啓発に努めております。

3 今後の進め方について

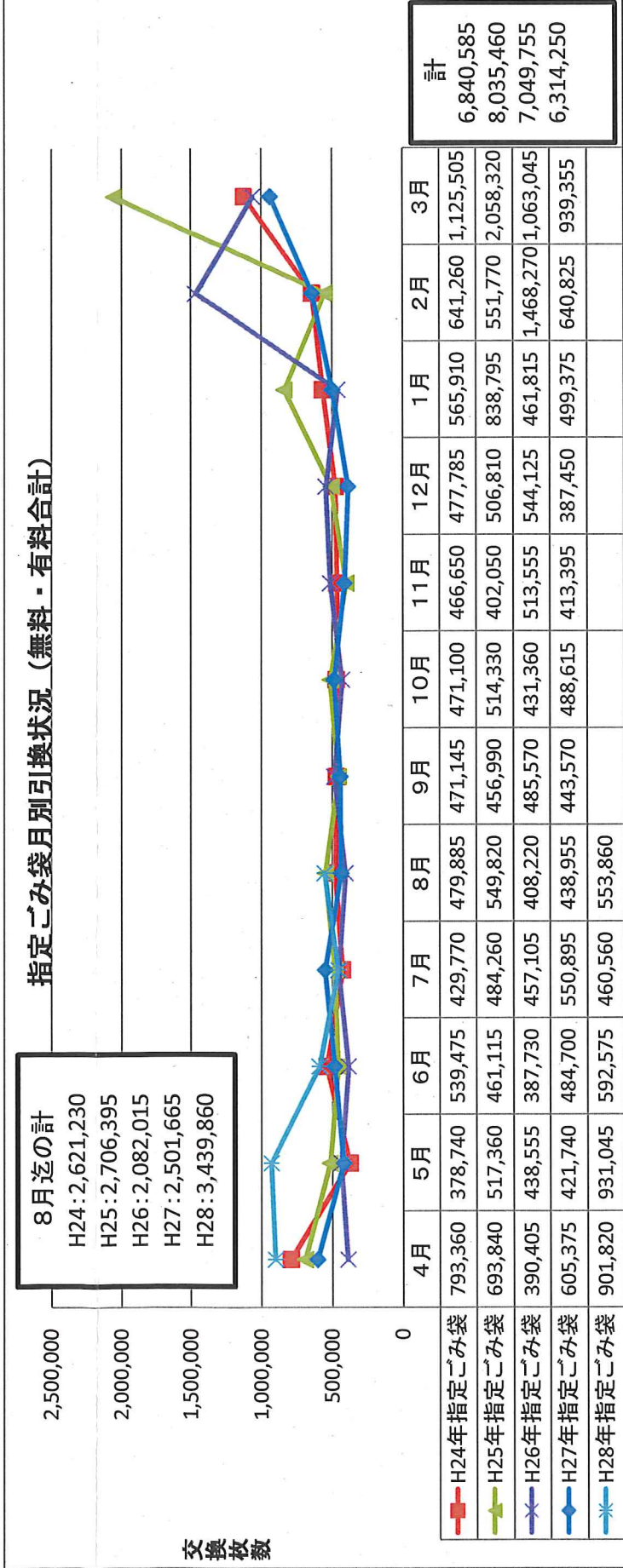
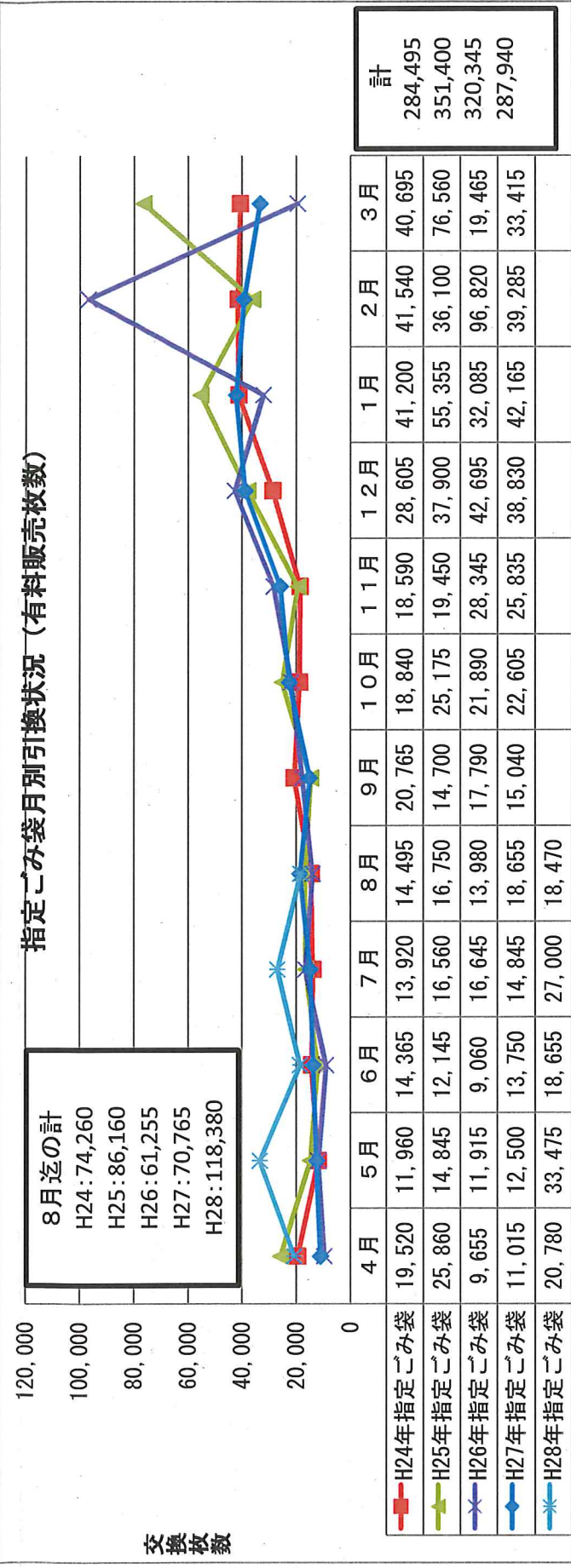
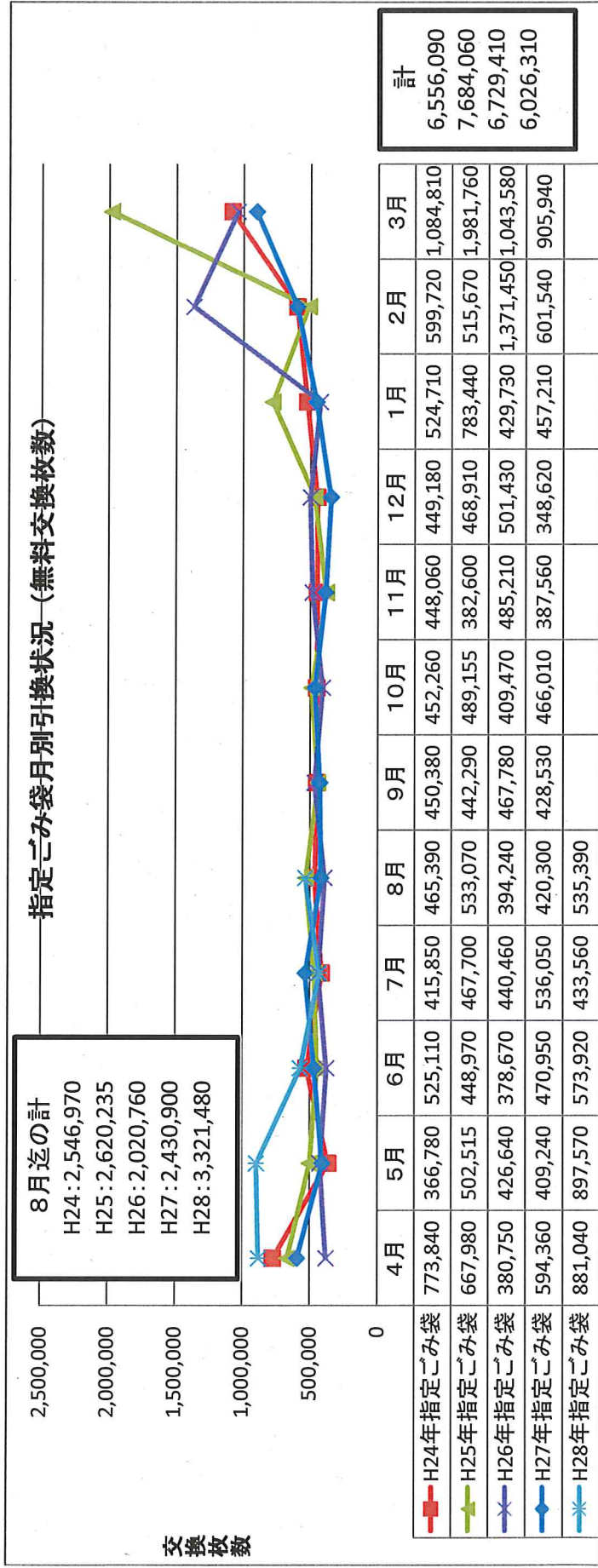
食品ロス対策については、食育基本法に位置づけられていることから、市内飲食店、学校等での食品ロスの減量の取組について調査をし、改めて、次回の審議会において、食品廃棄物の削減（食品ロス）についてご審議いただきたいと考えております。

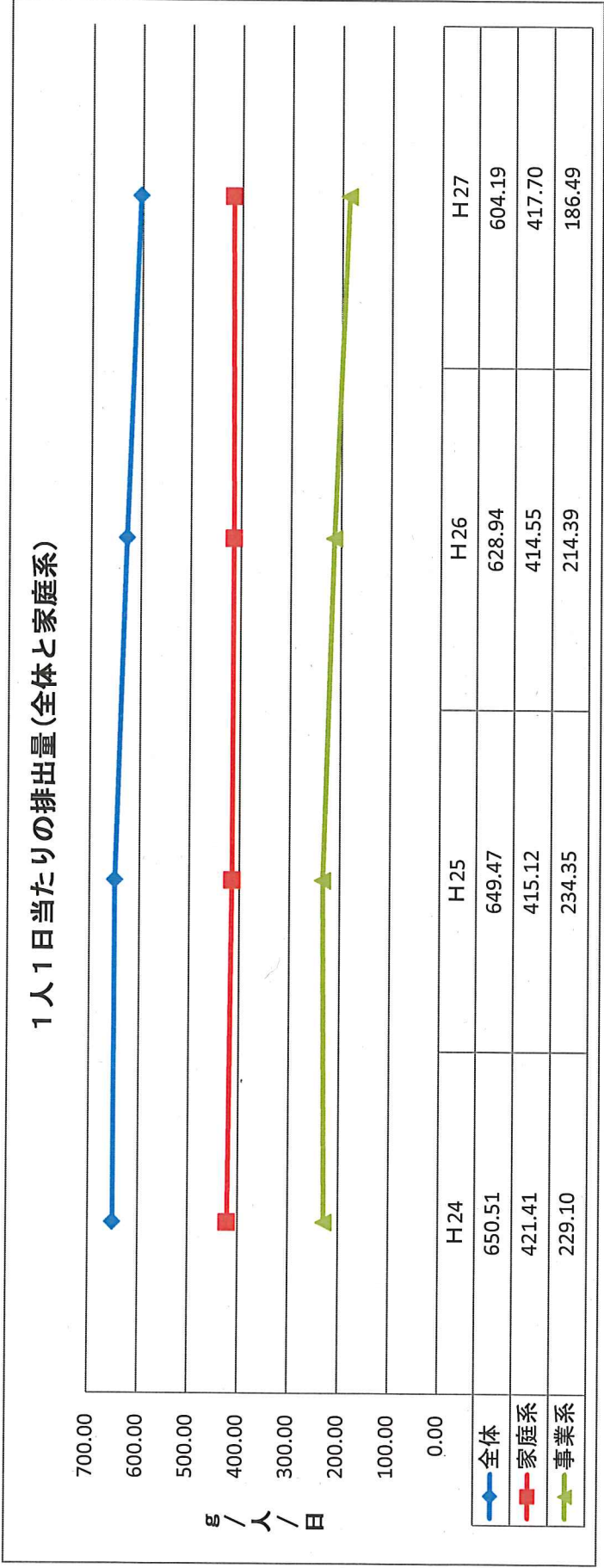
指定ごみ袋無料配布枚数の見直しについて
指定ごみ袋無料配布枚数・有料販売枚数推移

- 指定ごみ袋無料配布枚数130枚の時の引換枚数の平均： 約106枚
- 指定ごみ袋無料配布枚数120枚の時の引換枚数 (平成26年度実績)： 約105枚
(平成27年度実績)： 約93枚

◎容量別世帯毎の指定ごみ袋無料引換枚数

- 20ℓ (平成26年度実績)： 約90枚
(平成27年度実績)： 約82枚
- 30ℓ (平成26年度実績)： 約109枚
(平成27年度実績)： 約97枚
- 40ℓ (平成26年度実績)： 約121枚
(平成27年度実績)： 約100枚





【野田市の指定ごみ袋の無料配布枚数及び現状】

- ① 野田市廃棄物減等推進審議会の答申に基づき、平成26年度から指定ごみ袋の無料配布枚数を「130枚」から「120枚」に削減しました。また、8人以上の多人数世帯についても、見直しを行いました。
 (1人世帯) 20㍑: 120枚 (2～4人世帯) 30㍑: 120枚 (5～7人世帯) 40㍑: 120枚 (8～10人世帯) 40㍑: 130枚 (11～13人世帯) 40㍑: 140枚 (14人以上世帯) 40㍑: 150枚
- ② 25年度では、指定ごみ袋無料配布枚数や有料販売枚数が突出していますが、これは26年度より配布枚数の削減や消費税値上げによる影響により、必要枚数以上に交換したものと考えられます。

平成28年度 指定ごみ袋空隙状況調査結果

		ごみ袋の計				割合(%)		
		余裕あり	多少 余裕あり	容量満杯	計	余裕あり	多少 余裕あり	容量満杯
5月	全体	778	1,524	3,630	5,932	13.1	25.7	61.2
	市街	553	1,060	2,739	4,352	12.7	24.4	62.9
	新市	79	147	289	515	15.3	28.5	56.1
	調整	146	317	602	1,065	13.7	29.8	56.5
6月	全体	786	1,537	3,449	5,772	13.6	26.6	59.8
	市街	533	1,002	2,544	4,079	13.1	24.6	62.4
	新市	83	183	358	624	13.3	29.3	57.4
	調整	170	352	547	1,069	15.9	32.9	51.2
7月	全体	817	1,673	3,647	6,137	13.3	27.3	59.4
	市街	565	1,070	2,663	4,298	13.1	24.9	62.0
	新市	99	186	444	729	13.6	25.5	60.9
	調整	153	417	540	1,110	13.8	37.6	48.6
8月	全体	804	1,559	3,860	6,223	12.9	25.1	62.0
	市街	524	995	2,834	4,353	12.0	22.9	65.1
	新市	93	171	499	763	12.2	22.4	65.4
	調整	187	393	527	1,107	16.9	35.5	47.6
合計	全体	3,185	6,293	14,586	24,064	13.2	26.2	60.6
	市街	2,175	4,127	10,780	17,082	12.7	24.2	63.1
	新市	354	687	1,590	2,631	13.5	26.1	60.4
	調整	656	1,479	2,216	4,351	15.1	34.0	50.9

市全体5月～8月合計割合

